

# 北陸石仏の会々報

## 富山市寺家・寺家公園西向かい路傍 平和乃礎石碑前にある獅子狛犬考

酒井 靖春

富山県富山市寺家の主要地方道宇奈月大沢野線が寺町公園で左折する交差点の路傍に平和乃礎石碑の前に獅子狛犬がある。向かって右は子獅子左前足で踏み、口を開け、胸に龍の顔のような動物が彫られている。龍顔は紐で後ろに蝶結びにしている。獅子狛犬本体下の台座は、一体で四面に唐草文様が線刻されていて、これは富山のほかの狛犬にはない特徴である。

向かって左の獅子狛犬は、玉を左前足で踏んで口を開け、胸に龍顔と蝶結び、台座に線刻唐草文様と、右の獅子と同様である。この様式は中国の獅子狛犬の最終形態で、北京市の紫禁城に天子勅言の狛犬（青銅製）と書かれているものと同形態です。

天子勅言狛犬とは、玉を持つのが雄で、「天子たる者は執務部屋にだけに閉じこもらず、巷に出て民の様子をよく見なさい。」といういわれがある。また、子獅子を持つのは雌で、「天子たる者は巷の中にだけに身を置かず、執務に精を出しなさい。」といういわれがあり、獅子の前を通る時は、その謂によって己を正して諫めたという。そして玉は「財宝」子獅子は「子孫繁栄」の象徴とする。

平和乃礎碑は、横に石碑が別にあり、その石碑は皇紀二千六百年建之（昭



和十五年(2000)と刻字されており、その頃にこの一角に置かれたようである。紫金城の諫言獅子狛犬と同じ様式の狛犬は、富山市山王町日枝神社の拝殿前にもある。日枝神社には、太平洋戦争前頃まで拝殿前に青銅製の別の狛犬が置かれていたが、戦時供出でなくなった。玉と子を持つ狛犬の作例は、富山市中布目の布目神社と細入村割山の割山森林公園天湖森の西側、八幡宮横の三十番堂の中にある。また、立山町末三賀の神明宮のある狛犬は、子獅子と玉を持つ形が寺家の獅子狛犬と酷似している。石工の吉野留次郎の製作で、制作年は不明であるが、寺家の獅子狛犬に影響を受け、写しとして製作されたと思われる。

第67号  
 令和4年8月25日発行  
 編集と発行  
**北陸石仏の会**  
 (日本石仏協会北陸支部)  
 代表 平井一雄  
 〒939-1315  
 富山県砺波市太田  
 1770 尾田武雄方  
 電話 0763-32-2772  
 振替 00740-2-11974  
 (年会費 3000円)  
 ホームページ  
<http://odatakeo.wp.xdomain.jp/>

- ・獅子狛犬考
- ・法然上人
- ・無常仏「為法羅陀山」
- ・石仏を総じて「地藏さま」
- ・第62回例会報告
- ・令和三年度決算
- ・第63回例会案内

## 法然上人に関係する石造物

滝本 やすし



石川県金沢市小立野 浄土宗如来寺  
法然銅像(開宗850年記念造立)

法然は浄土宗の宗祖である。詳細については、書籍やWEB等で確認していただきたい。北陸三県にある浄土宗寺院のほぼ全てを訪問したが、法然に関係する石造物は極めて少ない。僅かであるが、ここに紹介したい。

### ①富山県黒部市石田 浄土宗西往寺／「美作／二幡の椋／分株」

西往寺境内にある椋の手前に、「美作／二幡の椋／分株」と刻まれた小さな石塔が建てられている。この椋は、法然誕生にまつわる美作二幡の椋の分株である。

法然は長承二年四月七日に、美作國で生誕。その際に、西の空から二つの幡が舞い降りて漆間家の椋の梢にかかり、七日後に飛び去ったと伝えられる。この椋は二幡の椋と称されるようになった。

### ②富山県立山町目桑 路傍／阿弥陀如来、聖徳太子、七高僧

目桑路傍の小堂内に二基の石塔が建てられている。左の石塔は、中央に阿

弥陀如来、左に聖徳太子、右に七高僧が彫られており、大正十四年(一九二五)銘が刻まれている。七高僧とは浄土真宗の宗祖親鸞が選定した天竺(インド)の龍樹・天親、震旦(中国)の曇鸞・道綽、善導、日本の源信・源空で、この第七祖の源空が法然である。ほとんどの真宗寺院に七高僧の掛軸が掲げられているが、石像は珍しい。

### ③富山県射水市野村 浄土宗瑞現寺／円光大師座像

瑞現寺境内に無縁塔と称する二基の石塔が建てられている。右の石塔は聖観音立像が彫られ、「奉納／西國三拾三番巡拝／壹國三十三番巡拝」と刻まれている。左の石塔は円光大師座像が彫られ、「奉納／円光大師二十五番巡拝／壹國円光大師式五番巡拝」と刻まれている。二基の石塔は同時に建てられたと考えられ、右の石塔の側面に「明治三十五年六月八日」と刻まれている。

越中国法然上人二十五霊場は法然生誕八百年の昭和六年に開創され、八百年遠忌の平成二十三年に再興された。この石塔の造立は明治三十五年であり、老國円光大師式五番とあるのはその当時の霊場である。瑞現寺は現在の霊場の第四番であり、六月に祖師講が行われている。

### ④富山県砺波市中野 路傍／慧光菩薩書名号塔

中野の路傍の農地の一角に、慧光菩薩御真筆と刻まれた大きな名号塔が建てられている。当地の藤田家第四世培氏の功績を称え、子孫によって昭和七年に建てられている。裏面の上部に藤田家に伝わる名号書を写して建てられたことが、下部には培氏の功績が刻まれている。慧光菩薩(法然)の名号にはこのような書体は確認されていないことから真筆とは考え辛いが、厚い信仰によって建てられたものと考えたい。

### ⑤福井県あわら市前谷 浄土宗松龍寺／「圓光大師廿五霊場第廿壹番」

松龍寺の入り口に「圓光大師廿五霊場第廿壹番」と刻まれた石標が建てられており、左側面に「大正十二年九月建之」の銘が刻まれている。越前には



②阿弥陀如来、聖徳太子、七高僧



①「美作／二幡の棕／分株」



④慧光菩薩書名号塔



③圓光大師座像



⑥石龕内に彫られた地蔵「源空上人」



⑤「圓光大師廿五霊場第廿壱番」

現在法然上人二十五霊場はなく、この石塔によって、その当時は二十五霊場があったことがうかがえるが、手元の資料やWEB検索ではそのような記述が見当たらない。

### ⑥福井県あわら市宮前 御前神社／西國三十三ヶ所石龕

御前神社本殿の左手に大きな石龕が建てられている。石龕の右の柱に「元禄八天（一六九五）乙亥八月廿日／敬白」、左の柱には「建立西國三十三番...」と刻まれている。また左の柱に「昭和三十二年八月再建」と追刻されている。石龕の内壁三面には、各十二体の尊像が浮彫りされている。これら三十六

体の尊像のうちの三十三体は西國三十三ヶ所観音である。奥壁に阿弥陀如来座像と十一体の観音、左壁には地藏立像と十一体の観音、右壁にも地藏立像と十一体の観音が並んで彫られている。左壁の地藏の脇に「源空上人」、右壁の地藏の脇に「仏岩上人」、三十三体の観音の脇には一番から三十三番までの番号が刻まれている。源空上人は浄土宗の開祖法然であり、仏岩上人は浄土宗の念仏行者播隆である。しかし石龕が造立された元禄八年には仏岩はまだ生まれていないので、各尊像の脇に刻まれている尊名や観音の番号は後刻と考えられる。

# 富山市西番霊園の無常仏「為法羅陀山」

平井 一雄

農村、漁村、山間部集落の墓地に付属する火葬場は、木材や藁を燃料とした簡易な火葬炉があるだけである。火葬炉のそばには必ず「地藏菩薩」石像や「南無阿弥陀仏」文字碑などの無常仏があった。富山市が西番地内に建設を計画していた火葬場、斎場、葬祭会館などの工事は、昭和四十一年七月から着工された。翌昭和四十二年には大泉にあった火葬場が廃止され、西番霊園として火葬炉十二基を備えた火葬場、斎場、墓地に統合された。その時に大泉火葬場や近隣火葬場から移されたと思われる「南無阿弥陀仏」文字碑などの無常仏や六地藏数組、単独地藏石仏約40体が墓地北端の基壇上に安置された。

「北陸石仏の会々報五十四号 富山市西番霊園の徳本名号塔 平井一雄」に報告した「徳本名号塔」の左となり立つ文字碑の解説ができなかった。

「為■陀山」が読み取れるが■の字がわからない。

これを「為法羅陀山」と読むなら無常仏としてもよいとおもわれる。『漢語例解辞典』には「法羅陀山」キヤラダセン・カラダセンは Kardiya の音訳。仏語。七金山の一つ、須弥山に近く、地藏菩薩の住むところという。

「法」の字は『角川新字源』の当用漢字、常用漢字、人名用漢字表になく『大辞典』・『字林集成』・『康熙字典』にある。

## 参考資料

### 1、五百羅漢で有名な桜谷長慶寺縁起より

曹洞宗法羅陀山長慶寺は、天明六年（一七八六）の創建です。開山の日輪當午大和尚が塩野大久保より、富山の河上屋一郎左エ門の招きで桜谷へ移転してきたものです。

山号の法羅陀山とは地藏の住む世界のこと、當午和尚が大久保にあった

とき「地藏院」と称していたので法羅陀山を山号にしたという。

### 2、延命地藏菩薩經

『延命地藏菩薩經』とは、日本で成立した偽經である。不空訳ということになっている。その名の通り地藏菩薩のご利益を説く。

#### 内容

・この經典は他の大乘仏典のように「如是我聞」ではじまるが、釈迦が説法する場所は須弥山を囲む七金山の一つであり地藏菩薩の住居とされる法羅陀山（からだせん、きやらだせん）である。そこで釈迦は無垢生という名の帝釈の質問に答え、自分が没した後に衆生を助け救う存在として延命地藏菩薩の名を挙げ、そのはたらきについて述べていく。

・この經典を受持し、地藏菩薩を崇敬し供養する人がいるなら、その人から百由旬もの距離の間では、あらゆる諸々の不幸が生じず、魍魎、鬼神、鳩槃荼のような魔物と無縁でいられる。また、どんな種類の神や霊でも、この經典と地藏菩薩の名前を聞けば、邪気を吐いて空を悟り、菩提を得るといふ。



西番霊園北端 無常仏・地藏集積場

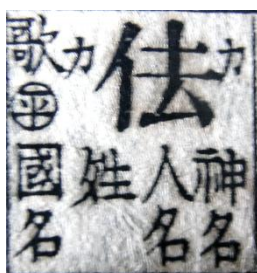


徳本名号石と筆者 左は「法羅陀山」無常仏

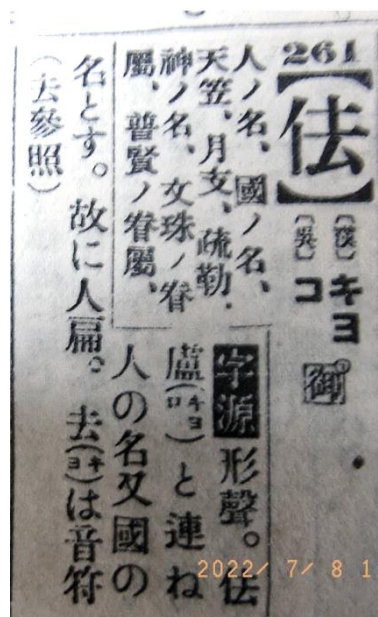
法羅陀山石碑 解説案



為  
法  
羅  
陀  
山



字林集成



大辞典

2022/7/8 11

# 石仏を総じて「地蔵さま」と呼ぶ」と

尾田 武雄

昭和五十五年頃に地元の石仏皆調査を行った。その際、石で彫られた観音様、不動明王様、聖徳太子像、他に名号塔まで「お地蔵さん」と呼ばれていた。調査された婦人の方々も石で彫られた仏様と地蔵様の違いについて、講習会を開いていたことを覚えている。翌年に『太田の石仏』を発刊したが、序文に砺波市文化財審議委員会会長佐伯安一氏が「石仏をひつくるめて「ゾーサマ（地蔵様）」というように、地蔵の数は数の上にもっとも多い」と述べられている。高岡市内の石仏に詳しい民俗学者樽谷雅好氏にお聞きしたところ、高岡も同じくある地区の不動明王石像を「オンゾハン（お地蔵様）」と呼んでいるという。

砺波市鷹栖の路傍のコンクリート製のお堂に阿弥陀如来坐像が入り、祭日には地区の人々が集まり、真宗の僧侶により読経される。その僧侶は七十歳代で古くから祭りに関わってこられたが、そのお像が螺髪、肉髻があり弥陀印の阿弥陀如来坐像と告げたら、驚き今まで地蔵でとして大事に信仰してきたとされた。また近くの阿弥陀如来坐像のお堂の脇に架かる提灯に「南無地蔵尊大菩薩」と大きく記されていて、阿弥陀如来坐像の石仏を地蔵さまとして大事にされてきた。

南砺市赤坂の聖徳太子二歳石仏の建立百年祭にお招き御受けた際に、お堂創建時の書類を拝見した時に太子像が入るお堂にもかかわらず「地蔵堂」と記されていた。砺波市太田の専念寺にある太子堂も明治の設計図には地蔵堂とある。

小矢部市内山では明治初期ごろに村の青年たちに相撲を指導した人物の草相撲の「南無阿弥陀仏」と彫られた名号塔がある。それを木で作られて説明柱に「力持ちの地蔵さま」とある。

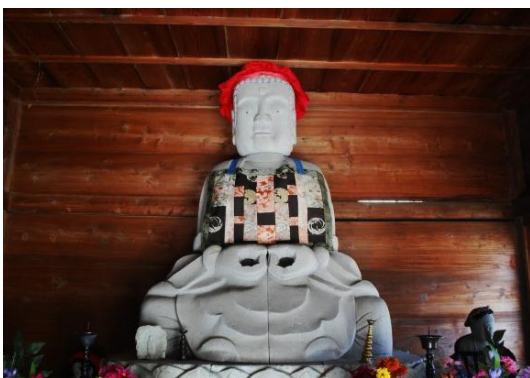
高岡市戸出町四丁目の旧道の四つ角に、大きいお堂に鎮座する阿弥陀如来

坐像がある。江戸時代末この地方に疫病が大流行し、多く死者が出た。特に幼児が多く亡くなり、その悪病退散の悲願のために当村の人びとが相図り慶応三年に建立されたものであり、石工は井波町七次郎である。お像の高さは六尺（一・八九メートル）、重さは約三百七十五貫（一四〇〇kg）であるという。お堂の前には「中古大地蔵菩薩由来」と彫られた石の案内板が立っている。地元では「デカ地蔵」と親しまれている。

高岡市雨晴にある「首切り地蔵」は、その説明板には「戦国乱世の頃より、これを首切り地蔵尊と伝え、能登通いの漁船、旅人に海難除けの守仏として尊ばれている」とある。これは中世の首の折れた阿弥陀如来坐像である。富山市石倉町いたち川淵の延命地蔵よりやや上流に辰巳町には、小堂の中に釈迦如来立像が入っているが、扁額に「釈迦如来地蔵」と掲げられている。ここでも石造の釈迦如来立像を「地蔵」の名がつけられている。立山町芦峠寺の布橋下には、不動明王石仏があり満願地蔵と称している。お参りすると願いが叶うとされている。平井一雄氏の情報によると富山市牛ヶ増と芦生の境に「南無阿弥陀仏」と書かれた勘造地蔵菩薩があるという。このような、石仏と地蔵という呼び方は、全国的には珍しいのでしょうか。またこれらの呼び方を記録に残すことも重要な、当会の仕事でもあると思われる。



小矢部市内山 力持ち地蔵



高岡市戸出町 デカ地蔵

## ようこそ石仏のあるライフ 第62回例会報告

藪谷 智恵

初夏の日差しが強い晴天のある日、砺波の石仏を巡りました。

あそこにもここにも石仏。車でよく通る道にも、立山酒造本社横にも、瓜破清水（うりわりしやうず）にも、石仏。視界の端には入っていたのかもしれない、田園風景にたえずむ石の像。でもそれがそこにあること、これまでは全然、意識していませんでした。

石仏をよくみれば、皆さんとても良いお顔をしていらつしやいます。多くは森川栄次郎さんという明治時代の石匠によって彫られたもので、目がくりつとして、口元がやわらかい不動明王様が特徴的です。石仏をながめて一日歩きまわると、だんだんと「ああこれは森川さんの作だ」とわかるようになってくる。目が森川さんのつくる表情を覚えるのでした。

砺波地方は日本で一番多くの石仏がある地域なのだ、「北陸石仏の会」の尾田さんが教えてくださいました。幕末から明治にかけて、庶民が豊かになるとともに、それまでは特権階級のものであった信仰の対象を民も建てることのできるようになり、たくさん石仏をここにつくった、ということ、富山の人たちが信心深く、また経済的にも豊かだったのでしよう。石を切り出し、運び、人の手で彫る、それはとても手間と時間、お金のかかることだったはず。

砺波地方出身の日本を代表する歴史学者、安丸良夫の『砺波人の心性』というテキストには、富山県が信仰の篤信地域であることと、近世後期から近代にかけて、とりわけ砺波地方が生産力的な先進地帯であったことが、様々なデータとともに書かれています。

明治前期（一八八一〜九六）の稲作平均反収は全国平均一、三六

石、石川県一、六一石、福井県一、三六石、新潟県一、三二石に対し

て、富山県は一、八一石で、全国第二位でした。また県内での群別平均反収を見ると、たとえば一八八四年のばあい、県平均は一、二七石に対して砺波郡は一、八二石、一八九八年のばあいでは、県平均一、九〇石、砺波郡二、一八石で、いずれも砺波郡が一位です。こうした高生産力を背景に富山県の米は早くから県外に移出されており、たとえば一八七七年の富山県からの米の県外移出は三二万石で全国一位（二位は新潟県二八万石、三位は佐賀県一七万石）でした。

（中略）

こうして、富山県、とりわけ砺波地域の米生産能力は、近世後期から近代にかけて全国的に見たばあいもつとも高い水準にあったと思われ、またもうすこし一般化して、北前船を利用した日本海沿いの経済活動が全国経済に占める比重は、その後の社会通念よりもずっと大きかったものと考えられます。

『文明化の経緯 近代転換期の日本 — 補論三 砺波人の心性』  
安丸良夫

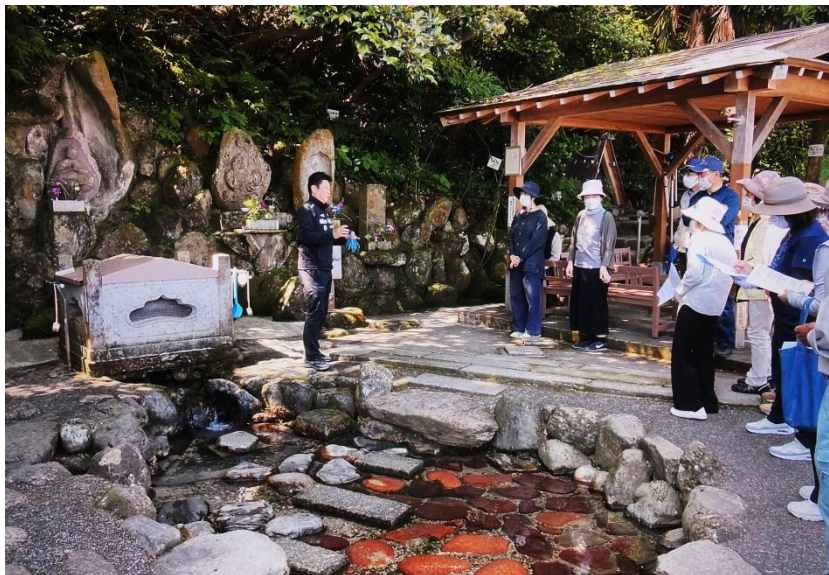
見渡してみれば、鎮守の森のような屋敷林に囲まれた立派な家々。水を張られた広々とした田んぼ。砺波地方には、「田舎」という一言では言い表せない、豊かさを感じさせる美しい風景が広がっています。石仏には、瑞々しい草花が手向けてありました。その心と、この風景の美しさは、深いところで繋がっているのだと思います。

一方、多くの石仏が明治の作ときいて、時代の変化に圧倒される気持ちにもなりました。たった百五十年前には、石仏が庶民の間で「流行って」いたのです。いまや、そこにそれが存在していることにも、私は気づいていないのに。

科学技術が発達し、経済的に豊かになり、主たる産業が一次産業から三次産業へとものすごいスピードで変化し、その速度がどんどん増している現在、私たちの多くは信仰を失ったというよりも、信仰の対象をテクノロジーとお



御上様塚観音堂前にて記念撮影



瓜裂清水にて庄川町東山見自治振興会長宮窪大作氏の説明を聞く



中筋往来不動明王前にて記念撮影

金に変化させてしまったように感じます。砺波地方の美しい文化景観も、社会の変化の中で、年々その保全が問われる状況にあります。

この美しさに、どうして留まっていられずに、時代は変わって、進んでいってしまうんだろう。大きな流れに抗うことはとても大変なことで、変わらないことを誰かに望むことは、部外者ならではの身勝手さにも思えます。でもここには、失くしてはならない大切なものを、人々のために残したいと動いている人たちがたくさんいて、私もやっぱり、ここにある美しさは、とてもとても大事なものだと思うので、自分にできることをやりたいと思うのです。

石仏に気づいて手を合わせることは、心がよるこぼ、嬉しいことだと思います。ひとつひとつの表情をよくみて、つくった人、手を合わせてきた人のことを考えると、その心がつくりだす風景にも気づいていくように感じました。会に参加したことで、見えていなかった石仏が見えるようになりました。この日から、私の人生に、石仏が存るようになりました。



## 北陸石仏の会 令和3年度決算

## 収入の部

項目	予算	決算	備考
前期繰越金	20,784	30,134	前年度繰越金
会費	60,000	77,890	
雑収入	15	0	貯金利子
合計	80,799	108,024	

## 支出の部

項目	予算	決算	備考
事務費	0	0	
会報費	60,000	60,000	会報(送料込み)カレンダー
郵送費	0	0	
会誌費	0	0	
予備費	20,799	0	
合計	80,799	60,000	

108024-60000=48024

次年度繰越金48024円

## 令和4年度予算案

## 収入の部

項目	前年度決算	今年度予算	備考
前期繰越金	30,134	30,134	
会費	77,890	60,000	
雑収入	0	0	貯金利子
合計	108,024	90,134	

## 支出の部

項目	前年度決算	今年度予算	備考
事務費	0	0	封筒など
会報費	60,000	60,000	会報
郵送費	0	0	切手代
会誌費	0	0	『北陸石仏の会研究紀要』
予備費	0	30,134	
合計	60,000	90,134	

## 令和4年度事業計画

5月 第62回例会 富山県

10月 第63回例会 石川県

会報年3回発行(4月、8月、12月)

## 役員構成

会長 平井一雄(富山県富山市)

副会長 滝本やすし(石川県金沢市)

事務局 尾田武雄(富山県砺波市)

理事 酒井靖春(富山県富山市)

理事 池田紀子(石川県金沢市)

監事 松井兵英(富山県富山市)

# 北陸石仏の会 第63回例会

## —能登甘田の石仏めぐり—

### 令和4年10月2日(日)

参加費：2500円（ガソリン代、拝観料、資料代等）

集合場所：①JR砺波駅南口……………7時20分

②道の駅のと千里浜……………8時30分

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号（携帯電話も）、集合場所

※集合場所および時間が不都合な方はご連絡下さい。

※感染対策を行い、乗用車に相乗りします。

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：令和4年9月16日(金)

案内：滝本やすし(石川県金沢市)

**見学予定**（石川県羽咋郡 旧上甘田村、旧中甘田村、旧下甘田村）

◎羽咋市柴垣町 日蓮宗本成寺／題目塔、浄行菩薩、笠塔婆、笠塔婆陽刻板碑

◎羽咋市柴垣町 不動尊堂／不動明王

◎羽咋市滝谷町 日蓮宗妙成寺／題目塔、浄行菩薩、笠塔婆、笠塔婆陽刻板碑、五重塔

◎志賀町坪野 坪野集会場／五輪塔陽刻板碑、阿弥陀種子板碑

◎志賀町坪野 藤本家／一字金輪種子板碑

◎志賀町宿女 火結神社／金剛界大日種子板碑、阿弥陀種子板碑

◎志賀町大島 路傍／如来形座像陽刻板碑

◎志賀町大島 大島海岸／石積六地藏石幢（通称諸願堂）

◎志賀町福野 気多神社／妙法蓮華経板碑、五輪塔陽刻板碑、普賢種子板碑

◎志賀町高浜 文化ホール保管／金剛界大日種子板碑（志賀町福井出土）

◎志賀町福井 共同墓地／金剛界大日種子板碑

◎志賀町矢駄 路傍／五輪塔、五輪塔陽刻板碑

諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。

令和4年度の会費を未納の方は、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3000円です。